

1. 一般的な理論的枠組み(p270-271)

- ・ 「世界の事物から視線を逸らして自己へ向け直すこと」が何を意味するのか  
↓フーコーが以前から提起しようとしてきた問題のちょうど中心に位置するもの
- ・ <真実を語ること> : 統治すること  
⇒この2つの概念が、どのように互いに結びつき、接続しているのか?  
↓これを考えるために...
- ・ セクシャリティに関して立てた問題・起点にする
- ・ <真実を語ること>と自己の統治の関係の問題を、キリスト教以前の古代思想において提起  
自己の自己へにおいて、どのようにしてある種の経験が形成され得たのかを示したい

↓

西欧の経験=主体による主体の西欧的経験

主体が他者たちについて持ちうるないしはなしうる西欧的経験に特徴的なもの

2. 真実の語りと主体化(p271,L6-15)

- ・ 事物についての知と自己への回帰がどのように結びついているかという問題
- ・ ヘレニズム及びローマ時代のテキスト
  - ・ ソクラテスが『ファイドロス』で言及した木についての認識と人間についての認識  
ソクラテスを選んだのは人間についての認識  
「興味深く、重要で、そして決定的なのは世界や自然についての秘密を知ることではなく、人間自身を知るということだ」  
⇒犬儒派・エピクロス派・ストア派といった主要な哲学諸派にも見られる  
↓どのように規定されているか、みていく。

3. 犬儒派における世界の知と自己の実践(p271,L16-p272)

- ・ 犬儒派の運動ないし犬儒派の人々の立場(自然の認識と自己の認識の関係という問題に対する)
  - ✓ ディオゲネス・ラエルティオスの例  
子どもたちの家庭教師をしていたとき、あらゆる学問を教えた  
子どもたちに注意を払い、学問について正確で馴染みやすい便概を作り、生涯を通じて機会あることに思い出せるようにした
  - ✓ ローマ帝政初期:セネカのテキスト  
トラセア・パエトゥスの腹心であり自殺を見届けたデメトリオス  
セネカはデメトリオスを称賛と敬意をもって引用している  
「よい格闘技の選手となるべきである」  
→実際に使われうる格闘のなかで一番頻繁に使われうる動作を、そしてそうした動作だけを知ればそれで足りる。...よく知られたいくつかの動作には、時に応じて即座に活用することができる程度に習熟している必要がある。(p272,L16-18)  
↓
- ・ 有用性の基準

使える、頼れる、格闘のさまざまな機会に簡単に頼ることのできる知識だけを考慮することにしよう。

知識の内容の分割（無用な知識・人間の実存に直接関わる有用な知識の間の分割）

↓じゃあ、どんなふうに分けられてたの??

#### 4. デメトリオスにおける有用な認識のもつ特徴 (p273-p278)

- ・ デメトリオスのテキスト

「如何なる動因が大海の潮の満ち干を引き起こすか、何ゆえに七年ごとにわれわれの年齢にしるしが付けられるか」(p273, L7-8)

⇒これらの理由は君には分からない。とはいえ、分からないような事柄とか、分かっても役に立たないような事柄を見過ごしたとしても、それが君に大して害を与えるわけではないであろう。真理は神秘に包まれて、深淵の奥深くに潜んでいる。(p273, L14-18)

⇒我々が探し当てられる唯一の収穫は、「それを探し当てたということ」だけ。

- ・ 知るべき事柄

「魂の富をそれ自体から得ようとすることを学んだならば、またもし魂が神々や人間に対する恐怖を払い、人間について恐れることは沢山はなく、神について恐れることは皆無であることを知ったならば……（中略）世界をあらゆるものを一つの家と見、また自己の本心を神々に打ち明けることができ、かつ他人よりも自分自身にいつそう気を配って、常に公に生きるごとく生きるならば……（中略）残余のことはすべて余暇の娯楽に過ぎない」(p274, L1-9)

⇒神や世界全般、他の人間について語っている。

|           | 例                                                                                                                                                                                   | 概念・説明                                                                                                                                                                                         |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知る必要のない事柄 | ・津波の原因<br>・人間の生を区切る7年周期の原因<br>・錯覚の原因<br>・双子はなぜ生まれる？                                                                                                                                 | ・人間の <u>生存に直接関わること</u><br><br>・ <u>原因による知識</u><br>⇒原因という点で探求されるべきではない。<br>(知ってもいいのは教養の喜び)                                                                                                     |
| 知るべき事柄    | ・人間について恐れるべき事柄はほとんどないということ<br>・神について恐れるべき事柄はほとんどないこと<br>・死はいかなる苦痛をも引き起こさないということ<br>・美德の道を見出すのは容易であること<br>・人は共同体のために生まれた社会的存在として考えるべきこと<br>・世界は共通の居住空間であり、あらゆる人間が集まって共同体を構成するものであること | ・ <u>関係的な知の様式</u><br>⇒知るべきは、関係<br>主体の主体を取り巻くすべてのものへの関係<br><br>・ <u>その知識を得、所有し、獲得するや否や主体の存在様式が変形してしまうような知識</u><br>⇒そのおかげで、人はよりよくなることができる<br>⇔教養の飾り<br>(※教養は、完全な真実があったとして <u>主体の存在様式を変えない</u> ) |

- ・ デメトリオスが拒む無用な知識  
認識の様式、認識の因果論的な様式によって規定されている
- ・ 認識の様式が持つ二重の欠如  
①命令に変形され得ない認識  
②その知識が知られたとき、主体の存在様式に対する効果をもたないような認識
- ・ デメトリオスが価値を認める知識  
直ちに命令の形に書き換えることができ、私たちの有り様を変えるような認識の様式  
⇒それを知る主体の状態を変化させることになる知識!!  
↓ 有用性の区別は、世界・人間の本性に関する事柄の間の区別ではなく・・・

## 5. エートス制作的な知(p278, L17-p280)

- ・ 主体のエートス  
主体が物事を行う行い方、主体のエートスにどのように効果を及ぼすようになるか
- ・ Ethopoiein  
エートスをなす、エートスを作り出す、個人の有り様を生存様式を変化させ、変形させることを意味する。
- ・ 知の領域に導き入れられた区別  
知の「エートス制作的な」性格を徴づけるもの  
⇒有用な認識、人間の生存がそこで問題となるような認識とは、主張すると同時に命令するような、関係に関わる認識、主体の存在様式に変化を生じせしめることができるような認識

## 6. エピクロスにおける自然研究的な認識(p280-p283)

- ・ 自然研究  
エピクロス派のテキスト・・・自然についての認識をきまて、自然研究と呼ぶ  
自己の実践に哲学的にふさわしいような自然についての知の様式  
「自然研究は、われわれを、ほら吹きにもせず、おしゃべりにもせず・・・(中略)かえってその研究は、われわれを、泰然として自己充足的な人にし、そして外的事物の善をではなしに、自分自身に特有の善を誇りとするような人にする」(P280,L7-10)  
⇒大衆がうらやむ教養をひけらかす人の養成、名声や自惚れの知
- ・ パイディア(言葉の芸人)  
言葉を捏造する人  
自分たちのために言説の合理的な骨組みに取り組むかわりに、言葉の音と結びついたりいくつかの効果を作り出して売る  
パイディアが何かを学び、何かを示すとき、その目標は全ギリシアをうならせたいということだけ  
⇒エピクロスはそうした人たちをほら吹き!として拒絶  
↓ どのような人ならいいのか? 自然研究をするとは?
- ・ パラスケウエー(準備すること)  
魂との装備・準備  
主体と魂がこれによって出られる可能なすべての状況に対してしかるべく、**武装**。  
**抵抗できるようにするためのもの**。  
目的に到達し、同時にその目標の上でじっと動かず、いかなるものによってもそこから逸らされないでいることを可能にするもの。  
⇒周囲の状況に由来するのではない、自分自身の財を誇るような、誇り高く独立した人間を与え、作り出す。

↓そうして作り出された個人は・・・

- ・ アウタルケイス

**自分自身にのみ依存する人(⇔他者依存)**

自分自身以外の何も必要としなくなるということだが、同時に彼らは自分たちの仲にいくつかの可能性を、そして特に自分自身と結び結ぶことになる充実した関係のうちに快楽や享楽を感じずる可能性を見出せるようになる

- ・ 自分に固有の財をつくりだすこと

あらゆる瞬間に、あらゆる事物の前でそれが**自分の権内になるのかないのか考え、判断**できること

**自らの誇りや満足、他者に対する自己主張(=自己肯定)を自己の権内にあるものを権内にあると認めることができるという事実の中に置く**ということ

自己の権内にあるものにたいして、全面的、絶対的で無制限の統御を打ち立てること

⇒主体を、自由な主体に変容させることができるような認識

## 7. エピクロス派の自然研究者のパレーシア(p283,L20-p286)

- ・ パレーシア

エピクロスの語り「むしろこのわたくしは・・・腹蔵なく語り」

⇒ギリシア語でパレーシアという語になる

師が、彼の知っている真実の事柄のなかから、弟子の変容の作業にとって有用なもの、効果的なものを然るべく利用することができるようにする技術

- ・ エピクロスが語った自然研究者の技法

主体の存在そのものをいささかも変えることがない。主体の存在様式を実際に変えることができるような自然のさまざまな真理を理解力のある何人かの人々だけに予言のようにして告げるということ、ここにこそ自然研究者の技法と自由が存在する。

⇒エピクロスが天界・気象界の事柄を認識するのは、あくまで、乱されることなく生きるため。

⇔自然の知・人間の知の単純な二項対立

- ・ 違いとしてみられること

事物や世界、神々や人間を対象としながら、主体の存在を変えることをその効果、その機能としている知か否か

⇒主体に作用する真理としての知か否か

- ・ 次回

ストア派における自己の認識と自然の認識について扱う

## 8. H 松のまとめと感想

- ✓ まとめ

まなざし(視線)を自己に向けようとする動きについて、ギリシア・ローマ時代にさかのぼってみていくと、「どのような知が有用・無用か」という議論が起こっていたことが見えてきた。無用な知とは、知ったところで自分のあり方(存在様式)に影響を与えないような類のもの。有用な知とは、他者・自己の関係性に関連するものであり、知識を得、所有し、獲得するや否や主体の存在様式が変形してしまうような知識とみられていた。自然研究は、主体を自由な主体に変容させることを目指し、自分の権内を徹底的に認識することで、自分の誇りや満足、他者に対する自己主張が自分の権内にあることを認め、そこから揺らがないように抵抗するために有用な知を学ぶという取り組みであった。

- ✓ 『感想』

パイディア（ほら吹き）の説明や例をみて自己主張強い系ないし陰謀論系 YouTuber みたいだなと思いました。全世界をうならすため（いいねなり、PV なり、なんらかの形で反応を得るため）に言葉（ほら吹き知）を作り出して演じることで生きている人なんだなと。

某 YouTuber が「自分はオープンマリッジなので…」と、大切な存在であるはずの妻を消費の対象にしたときも、そりゃないでしょ!?!と、怒りを感じたのですが。

今回の講義録を読んで、名声とか良い評判狙いのひけらかしをする人って、いつまでも他者依存で、自分が自分の責任で守り切れる範囲が確立してないかわいそうな人なんだなと、論理的にバツサリ見切りをつけることができました（笑）

✓ 『みなさんと話し合いたいこと』

今の学校の教育は、自分の権内で自分を認められる（自己肯定できる）主体のあり方を育成する手助けができていますか??

※大学でいちおう、教壇に立たせて頂いている H 松、自戒の念を込めて皆さんと話し合ってみたいです。